

平成 21 年 4 月 20 日現在

研究種目：基盤研究 (B)
 研究期間：2006～2009
 課題番号：18330193
 研究課題名 (和文) 教育職能の形成と高度化に関する研究

研究課題名 (英文) A Study on Teachers Competent in Japan

研究代表者

松岡 重信 (MATSUOKA SHIGENOBU)
 広島大学・大学院教育学研究科・教授
 研究者番号：18330193

研究分野：教科教育学

科研費の分科・細目：4003

キーワード：教育職能・社会システム・教育制度・教員養成制度・教員選抜・学校システム

1. 研究計画の概要

海外の教育事情(学校制度・教員養成制度)等を社会システムとして扱い、単に教師個人個人の能力に還元しない方向で考える。その際如何なるシステムがよりよく教師達を鼓舞し、また、その能力を発揮させるかを探るものである。その為、

- (1) 諸外国の教育事情を出来るだけ多く、実地に調査して、システムの特徴を把握する。
- (2) その諸外国の歴史や国情において、これらを意味づけながら日本の場合と比較する。
- (3) 日本での教員養成制度改革や、今後の教員選抜・教員研修等について提言する。

2. 研究の進捗状況

現在の段階で、研究分担者が以下の国々の調査を完了したか、現時点で調査に出向いている。調査完了国は、アメリカ・フィンランド・ネパール・ブータン・中国・台湾である。また今の現時点で調査に出向いているのが、カナダ・スウェーデンである。1回の調査で把握しきれない場合、再度の調査も行っている。それに該当するのは三根のフィンランドと、アジアの発展途上国のブータン・ネパール(松岡)がある。途上国のブータンでは、英語による教育のみならず、一部に極めて注目できるシステムがある。

3. 現在までの達成度

日本の大学の休暇を使わざるを得ないので、各分担者が調査国と連絡調整をとりながら調査を展開している。まずまずのペースで展開していると考えている。

- ② おおむね順調である。

4. 今後の研究の推進方策

次年度にドイツ・オーストラリア等の調査を射程に入れながら、報告書をまとめる。可能であれば「世界の教員養成・多様な授業」といった題目での出版をも考えていきたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ・ 松岡重信：教育職能の形成と高度化に関する研究(1)、一教職高度化計画と教科教育学一、(査読無)、日本教科教育学会誌、30(3),63-66,2007
- ・ 松岡重信：教育職能の形成と高度化に関する研究(2)―教育関連システムの関係性とその特徴を中心に―(査読無)、日本教科教育学会誌、(印刷中)

[学会発表] (計5件)

- ・ 加治佐哲也：教職大学院計画の推移、第33回日本教科教育学会全国大会、2007.10. 横浜国立大学
- ・ 井上 崇：教育現場で要求される能力の特徴、第33回日本教科教育学会、2007.10 横浜国立大学
- ・ 三根和浪・鈴木明子：フィンランド教育と教員養成の特徴、第34回教科教育学会全国大会、2008.12.6、宮崎
- ・ 難波博孝：台湾の教員養成の特徴、第34回日本教科教育学会全国大会、2008.12.6、宮崎
- ・ 清水欣也：アメリカ教育と教員養成、第34回、日本教科教育学会全国大会、2008.12.6 宮崎